

[報告] 埼玉県所沢市に残る 1923 年関東地震の翌日以降の日記

栄東中学校* 徳田 光希

栄東高等学校† 荒井 賢一

Diaries in Tokorozawa City, Saitama Prefecture Written after the Day after the 1923 Kanto Earthquake.

Koki TOKUDA

Sakae Higashi Junior High School, 2-77 Suna-cho, Minuma-ku, Saitama City
Saitama, 337-0054 Japan

Keni'chi ARAI

Sakae Higashi Senior High School, 2-77 Suna-cho, Minuma-ku, Saitama City,
Saitama, 337-0054 Japan

Keywords: The 1923 Kanto Earthquake, Saitama Prefecture, Tokorozawa City, Diaries.

§ 1. はじめに

1923(大正 12)年 9 月 1 日に発生した関東地震によって、埼玉県内では主に南東部の春日部、幸手、川口の各市(県内の三大被災地が含まれる)において、家屋の倒壊を含む甚大な被害が生じた(それぞれ荒井他(2017a, 2017b), 篠田他(2018), 荒井・篠田(2019)). また、県庁所在地であるさいたま市では、市の東部(岩槻区)や南部(南区など)で揺れによる被害が顕著であった(石黒他(2014)および石黒他(2015)).

一方で埼玉県所沢市では、上記の各地域に比べ被害が少なかったものの、寺社の被害、庭の石灯籠や土蔵の壁の破損について、石碑や 1923 年 9 月 1 日に記された 3 家の日記から読み取れる(荒井・篠田(2021)). この研究に興味をもった著者らは、1923 年 9 月 2 日以降の日記にも、地震に関することが記されている可能性を考えた. そこで、同年 9 月 2 日以降に記された日記について、読み取りを継続している. 本稿では、その取り組みについて報告をする.

§ 2. 調査をおこなっている日記

調査をおこなっている日記は、荒井・篠田(2021)で対象とした「諸星新助日記」の資料原本(図 1)、及び「北田斧吉日記」(図 2)と「鈴木源一日記」(図 3)の

資料原本の複写版である. 調査は、所沢市教育委員会にお伺いし、1923 年 9 月 2 日から同年 10 月 31 日までを接写させて頂いた.

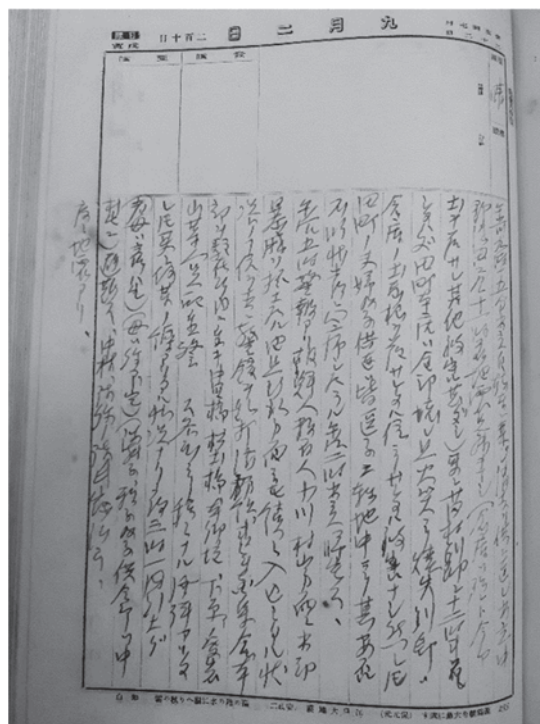


図 1. 諸星新助氏が書いた 1923 年 9 月 2 日の日記
Fig.1 The diary written by Mr. Shinsuke Moroboshi in Sep.2 of 1923.

* 〒337-0054 埼玉県さいたま市見沼区砂町 2-77

電子メール: sh_rikaken.koki@gmail.ne.jp

† 〒337-0054 埼玉県さいたま市見沼区砂町 2-77

電子メール: rikaken_sh@yahoo.co.jp

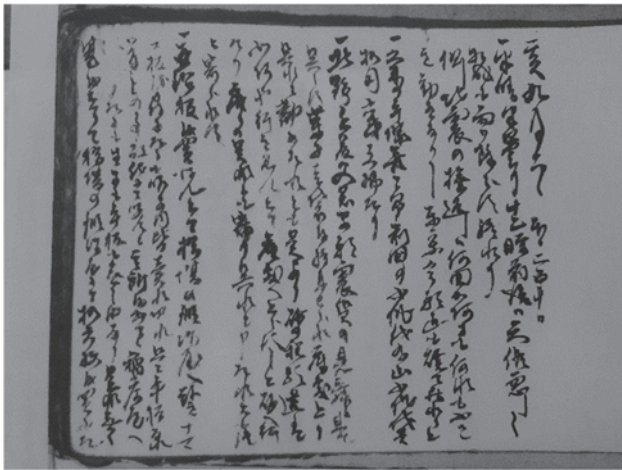


図 2. 北田斧吉氏が書いた 1923 年 9 月 2 日の日記
Fig.2 The diary written by Mr. Onokichi Kitada in Sep.2 of 1923.

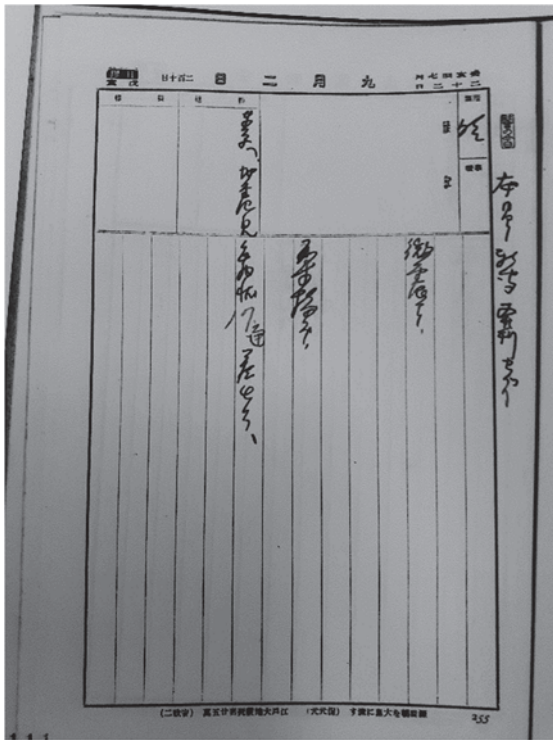


図 3. 鈴木源一氏が書いた 1923 年 9 月 2 日の日記
Fig.3 The diary written by Mr. Gen'ichi Suzuki in Sep.2 of 1923.

それらの写真を基に、崩し字辞典を検索し、本校の国語科(書道)の教員にもご指導頂きながら、1つ1つ読み進めている。このうち、「北田斧吉日記」は、所沢市教育委員会による翻刻文を基に、資料原本の複写版の確認をしている。3家の2ヶ月間の日記から読み取れたことを、§3において記述する。

§3. 日記から読み取れたこと

本章では、余震の発生、流言による町内の混乱、石灯笼や土蔵といった建造物の修復、銀行をはじめとする商業の動き、被害が大きかった地域の支援等に関して読み取れたことを記述する。

3.1 諸星新助氏の日記

諸星新助氏は 1923 年 9 月 1 日以降、1924(大正13)年 1 月までの日記帳を閲覧する限り、1 日も欠かさずことなく、日記を書いている。本人が経験した特筆すべき出来事の多少により、1 行だけ書いている日から、9 月 2 日の日記(図 1)のように 1 日分のページに余すところなく書いている日まで見られる。

関東地震翌日の 9 月 2 日の日記によると、余震が度々発生している。また、夕方 5 時過ぎに警鐘が鳴らされ、朝鮮人数百人が隣接する町で暴動を起こし、所沢方面へも入ってきたという情報が流れた。この情報に基づいて、消防組や青年団が集められ、所沢の町内へ通じる各橋に人員を配置し、夜中の 3 時頃まで警戒にあたったものの何も起こらなかった。篠田・荒井(2022)が示している埼玉県北西部地域で発生したような大規模な混乱や事件ではなかったものの、県の南中部に位置する所沢市域でも明らかに流言は流れていた。

翌 9 月 3 日の日記からは、前日の 9 月 2 日の度重なる余震や流言による騒動により、かなりの疲労に見舞われ、休養を余儀なくされたことが読み取れる。この日も、朝鮮人の風評が流言として流れていたようである。

その翌日の 9 月 4 日の日記には、本震の発生から 3 日ぶりに、地震に関する記載は無くなる。この日の日記には、選挙運動として有力者を巡ったことが記されている。所沢市史編さん室(1984)によると、1924 年 1 月に県会議員選挙が行われ、諸星新助氏は立候補し当選している。9 月 4 日の日記から、関東地震の本震が発生してから 3 日後には、選挙運動を再開できる状況であったことが伺える。また、9 月 5 日以降の日記には、米などの食料品の流通に関する記載も目立つようになり、日常の生活が取り戻されつつある。

3.2 北田斧吉氏の日記。

北田斧吉氏は、日記を記すことに毎日 1 時間程をかけており(荒井・篠田(2021))、3家の日記の中では最も多くの情報が含まれている。読み取れたことを表

表 1. 北田斧吉氏の日記から読み取れたこと
Table.1 Contents read from the diary written by Mr. Onokichi Kitada.

月	日	概要	日記に記されていた内容
9	2	余震	度々余震があったが、揺れはいずれの余震でも小さかった
		銀行	所沢銀行が臨時相談会を開催
	4	修復	近所の人により、北田家の土蔵と石灯籠（火袋）の修復
	5	銀行	所沢銀行は通常どおり開店
			八十五銀行は払い出し上限を百円として通常通り営業
			飯能銀行は払い出し上限を五十円として通常通り営業
	7	小作代	小作人も震災の後片付けのため、小作代の徴収は困難
	10	義捐金	震災義捐金を募る動き
13	救援	所沢の青年団が東京方面へ救護班として行くための交通費の寄付を募った	
16	修復	石灯籠や寺の墓石の修復	
10	6	余震	前夜（10月5日）の午後11時頃に地震があった
	13	修復	石灯籠の修復
	14	追悼	体操場において大霊惨死者の追悼会

1 にまとめる。

3.3 鈴木源一氏の日記

鈴木源一氏は、前述の 2 人に比べると文字の量は少ないものの、やはり毎日欠かすことなく日記を記している。本震翌日の 9 月 2 日～9 月 4 日には、いずれの日も「微震アリ」と記している。この他にも、地震に関する可能性を伺える文字は見られるものの、極めて特徴的な崩し字で記されており、読み取りが困難な文字も多い。

§ 4. 今後の研究の展望

今後は、崩し字について更に学び、所沢市域（日記を書いた本人が住む地域）の地理や 1923 年～1924 年頃の歴史も調べ、本稿で記述をした 1923 年 9 月と 10 月の日記の再読も含めて読み取りを

継続する。「日記を書いた本人が経験したこと」や「その人が住んでいる街の変遷」を追跡することで、減災や震災からの復旧・復興、支援の在り方を考えるヒントを得られると考えている。

2023（令和 5）年 9 月 1 日で、1923 年関東地震の発生から 100 年の節目をむかえる。今後の地震への備えを考える上で、この地震から我々が得ることのできる教訓はまだ多く残されている。

謝辞

本研究は、公益財団法人武田科学振興財団より「高等学校理科教育振興助成」に採択され、助成金を調査の旅費や文献の複写に充当させて頂いた。北田家、諸星家、鈴木家の日記は、所沢市教育委員会より提供を頂き、各日記の解釈等に関して木村立彦氏よりご指導頂いた。本校国語科（書道担当）の藤井聡氏には、日記の崩し字の読み取りに関してご指導頂いた。本校理科研究部員の堀井陽澄氏には、諸星家日記と北田家日記の解釈を協力頂いた。記してお礼申し上げる。

対象地震: 1923 年関東地震

文献

- 荒井賢一・小林優介・竹原輝・高木駿・山浦照良・安倍聡志・北廣創史, 2017a, 埼玉県春日部市に残る 1923 年関東地震に関する石碑, 歴史地震, **32**, 77-86.
- 荒井賢一・小林優介・竹原輝・高木駿・山浦照良・安倍聡志・北廣創史, 2017b, 埼玉県春日部市に残る 1923 年関東地震に関する記録 ～大震災記念児童文集と大正 12 年粕壁町震災写真帳～, 歴史地震, **32**, 103-106.
- 荒井賢一・篠田海遥, 2019, 埼玉県川口市に残る 1923 年関東地震に関する記録, 歴史地震, **34**, 185-196.
- 荒井賢一・篠田海遥, 2021, 埼玉県所沢市に残る 1923 年関東地震及び 1924 年丹沢地震に関する記録, 歴史地震, **36**, 33-42.
- 石黒喬大・荒井賢一・西山享佑・安倍聡志・平原優美・増田滉己・浜橋一徳・齋藤隆・木村円香, 2014, 埼玉県さいたま市に残る 1923 年関東地震に関する石碑, 歴史地震, **29**, 111-128.

- 石黒喬大・荒井賢一・小林優介・西山享佑, 2015, 埼玉県さいたま市に残る 1923 年関東地震に関する石碑その 2, 歴史地震, **30**, 139-148.
- 篠田海遥・野間鉄心・荒井賢一, 2018, 『幸手町のかたりべ』に記された埼玉県幸手市における 1923 年関東地震, 歴史地震, **33**, 220-236.
- 篠田海遥・荒井賢一, 2022, 埼玉県北西部に残る 1923 年関東地震に関する記録 ―震災によって生じた人々の混乱―, 歴史地震, **37**, 93-104.
- 所沢市史編さん室, 1984, 所沢市史調査資料 25, 近代史料目録編 4, 445pp.